

人生ハンド仏句

第54号

H. 18. 9. 1
(毎月1日発行)

報恩感謝

住職 谷川寛俊

よく、「仏教と道徳はおなじでしょう」などといわれます。確かに仏教でも、道徳と同じく「人助けをし、善い行いをし、悪い事をしてはいけません。地獄に堕ちます」と話します。「自分さえお金持ちになれば、悪い行いをして他人を蹴落としても良い」という最近良くテレビに出てくる人のような自己主義の考えの人が多くなり、感謝や思いやりといった道徳が忘れられています。ですから、倫理・道徳は大事です。しかし、もっと大切なものが仏教です。なぜなら、人々が考え、社会生活の秩序を保つ為にあるのが倫理・道徳で、

人ではなく、悟られたお釈迦様がこの世の真実を説かれたのが仏教であります。

すると「仏教はお釈迦さまが説かれたんだから、どれも一緒でしょう」という人がいます。その考え方も違うのです。仏教を大きく二つに分けると、法華経と他の教えとに分けられます。法華経以前の教えはお釈迦様が相手の知恵に応じて説かれた教えで、真実を明かされていないのです。

例えば、浄土宗、浄土真宗、どちらも浄土三部経をよりどころにしていますが、その一つ『観無量寿経』の内容は、魔訶陀国(まかたこく)の父である王を、その子である阿闍世(あじゃせ)太子が提婆達多(たいばだつた)にそそのかされて、幽閉し殺害する。子の悪逆に悲しむ夫人の韋提希(いだいけ)がお釈迦様に「なぜこんな目にあつのか」と問い、

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>

それに答えたものが浄土三部経。

この世では救われず、あの世の極楽浄土で阿弥陀仏に救われるという教えが説かれています。しかし、この世で苦しい目に合っている夫人の問いに、あの世で救われる話は答えになつておらず方便であり、本当の答えは法華経提婆達多品(ほけきょうだいたばほん)に説かれています。その人に応じて説かれた教えと違い、法華経はお釈迦様の心がそのまま説かれた教えです。つまり私達の知恵に合わせた内容が他の教えで、仏の智慧そのものの内容が法華経です。

では法華経に説かれている、この世の真実とは何でしょうか。この世の一切のものは、久遠(永遠の命)のお釈迦様の子供なのです。ですから、苦楽共にお釈迦様のお蔭であるとの感謝の心で、より一層の信仰に励んで頂きたいのです。

しかし、ここで問題なのが「法華経の教えとは本当に有り難い」と思つて信仰しているかどうかです。

目の前の欲望を叶える事、自己の思い通りに行動する事を幸せの目標とし、本仏の慈悲を生かされている事をわすれてしまふ、そんなひっくり返つたところの私達を救うただ一つの方法が、お題目、南無妙法蓮華経と唱える事です。お題目信仰こそが私達凡夫がお釈迦様の智慧を頂き成仏する事ができる唯一の方法なのです。今月は、秋のお彼岸です。

ご先祖様を敬い信仰を中心とした生活を営みましょう。

礼をもつて
善行ほつて